

# 廃校施設を活用した複合施設(複合施設ふれんど平尾) (東京都稲城市)

## 取組概要

稲城市は現在も人口増加を続けている市であるが、開発が先行した平尾地区では、5階建て集合住宅全68棟から成る平尾団地が昭和45年に入居開始となり、同年に稲城第五小学校が開校、さらに昭和51年に稲城第八小学校が開校したが、児童数の減少に伴い、平成14年に当該小学校が統合され、稲城第八小学校が廃校となっている。その小学校の廃校を活用し、生活文化施設、学校教育施設(教育相談室、特別支援教室相談室、適応指導教室、学校経営支援室)、障害福祉施設(発達支援センター、就労継続支援施設)、生涯学習施設(郷土資料室)、シルバー人材作業施設、体育施設、消防・防災機能と幅広い機能を集約した複合施設としている。

人口 88,602人

担当 企画政策課

## 取組の効果

教育施設である特別支援教室相談室と障害福祉施設である発達支援センターは、同じ事務室で執務をしていることから、教育と福祉の両面から必要に応じてすぐに連携がとれ、発達障害の子供の就学前からの一貫した支援を行えるようになった。



複合施設ふれんど平尾

## 創意・工夫した点

生活文化施設、学校教育施設、障害福祉施設、生涯学習施設(郷土資料室)、体育施設、シルバー人材作業施設、消防・防災機能と、幅広い機能を1カ所に集約した複合施設であること。※複合的利用については、平成16年度に地域再生計画の特区を認定されている。

## 他団体へのアドバイス

市民のご意見も伺いながら、また、市民の皆様への丁寧な説明をするため、市民説明会等を複数回開催することなどが重要。



開館に伴いリニューアルされた郷土資料室